

ふれっと

2020
第47号

【ひろがれ、かसानれ、むさしののわ】



特集

知りたいの想いをかたちに
福祉の専門家によるミニ講座の開催

●トピックス

「武蔵野市ふるさと応援寄付」
がスタートしました!!

●たて糸よこ糸

朗読奉仕の会むさしの

●えすぶれつそ

入居者の誕生日

金原 叶依

話を聞いてもらう経験が
自分で解決する力に繋がる

山下 愛澄

●福々刻々

ミライズ基金 御礼とご報告



“知りたい”の想いをかたちに ～福祉の専門家によるミニ講座の開催～

当法人は3年前から障害のあるお子さんを持つ親御さん向けに、卒業後の進路のこと、将来の生活等“知りたいこと”をテーマに『ミニ講座』を開催してきました。昨年度まで9講座、のべ300人の方が参加されています。今回はそのミニ講座についてご紹介します。

当法人は、武蔵野市内で22の施設により44の事業を展開しています。

それぞれの事業を通じて、法人が掲げる「地域社会に役立つ」という基本理念の下、地域の皆様の協力を得ながら、これまで様々な取り組みを行って参りました。

そうした日々の取り組みを通じて得られた地域の皆様からの声や、実績をもとに、より身近なテーマを題材とした「連続ミニ講座」を開催しています。

「こんなことが知りたい」「あれはどうなっているの」「もっと教えてほしい」など、寄せられた多くの“知りたい”という率直な想いに応えたい、その想いをかたちにすべく企画してきました。育ちについて、友だちとのつきあいについて、お金について、リスクについて、進路について、将来について……。寄せられたテーマは、ご本人や家族の想いの数だけ無限大の広がり。どれも身近で大切と思えるものばかりでした。

早いもので、3年が経過しまし



た。この間、9つの連続講座を開催し、のべ300人を超えるご参加をいただきました。

参加された方からは、「知りたいと思っていったことを、こちらの想像以上に詳しく知ることができました」「自身の子育てを振り返るよいきっかけになりました」といった声をたくさんいただきました。こうしたことが職員の励みになっています。

講座を通して伝えたいのは、転ばぬ先の杖としてのノウハウや福祉サービスに関する知識だけではなく、障害のある人の人生設計や幸せの実現には周囲の理解

と協力が必要です。様々な角度から、様々な方々の話を聞くことで、見方が変わる、考え方の幅が広がる、感じ方が豊かになる、そういったことの積み重ねが多様性を受け入れる心のゆとりを生み出し、“その人らしい暮らし”を送る土壌を築くと考えています。このミニ講座はその取り組みの一つとして位置づけており、これからも“私たちができること”を追求し、地域の方々の理解と協力が得ながら、発信と取り組みを進めていきたいと思っています。

(ジョブアシストいんくる
後藤 耕土)



社会福祉法人武蔵野 連続ミニ講座のラインナップ

これまで、当法人サービスのご利用者やご家族からいただいた声をもとに、テーマを設定しました。

昨年度までの全9講座から一部抜粋

開催時期	テーマ	内容	講師
平成29年6月	グループホーム、あれも聞きたい、これも聞きたい。	グループホームの概要と現状、利用にあたって必要な手続やポイントについて。当法人のグループホーム施設長が説明。	土橋誠人（居住支援ユニットリエゾン施設長：当時）
平成29年10月	働くこととは？	「企業で働く」という視点から、今から準備すべきことを企業の障害者雇用担当者が講演。	竹之内雅典氏（キャノン株式会社：当時）
平成29年12月	障害児・者の性の指導について	「性」の基本的なとらえ方や自分の心や体を受け入れる為にどのような支援が必要なのかを性教育のベテラン教師が講演。	永野佑子氏、永田三枝子氏、日暮かをる氏（“人間と性”教育研究協議会）
平成30年2月	障害者本人と家族の権利と責任	トラブルに巻き込まれてしまった場合、民事上、刑事上どのような事態が想定されるのか、それに対してどのように対処すべきなのか、障害者の権利擁護と法的責任について弁護士が講演。	久保田聡氏（弁護士：明日の風法律事務所）
平成30年12月	障害のある子の〈親なき後〉～〈親あるあいだ〉の準備	親なき後に向けた準備への取り組みについて行政書士が講演。	渡部伸氏（行政書士：渡部行政書士事務所）
平成31年2月	会社が求める人材とは？～今からできる準備について～	実際の特例子会社の事例をもとに、就労に向けた準備の話。	木下亜樹氏（アフラック・ハートフルサービス株式会社：当時）

参加者の感想



Aさん母

「卒業後の進路は、高等部在学中の実習等で絞ることができます。当面は福祉的な就労で力をつけさせたいと考えました。将来は一般企業を目指したいと思います。どのようにその考えをまとめていけばいいのか迷っていましたが、今回は、実際に企業で障害者雇用を担当されている職員さんからの話でとても参考になりました」

「まだまだ先のことと思っていた親なき後の生活も、気がつくとそんなに先のことでもないように最近は思えてきました。話の内容がとても具体的で、実際のエピソードや参考になる写真などが多く使われていたため、イメージが膨らみました」



Bさん母

参加者の感想



2月10日開催予定
第3回：ミニ講座

将来の社会参加に向けて

第3回目は今年度の締めくくりとして、自閉症のお子さんをもつ母親でもある臨床心理士の角田みすゞ氏を講師に迎えます。働くことと進路についての家族の取り組みがテーマです。

- ◆日時 令和2年2月10日（月）10時～11時半
- ◆会場 武蔵野市役所 西棟811会議室
- ◆申込 武蔵野福祉作業所（担当：森谷）メールまたはFAXにてお申し込みください。
- ◆メール：fukusaku@fuku-musashino.or.jp ◆FAX:0422-53-9337

令和元年度第2回ミニ講座、
取材してきました！

映画「いろとりどりの親子」上映会



12月7日（土）、大野田小学校のけやきホールで映画「いろとりどりの親子」の上映会が開催されました。外はかなり冷え込む中、スタッフの皆さんは朝早くから準備され、74名の地域の方々が参加されていました。映画を観た後は、重く深いテーマで多くの問いを投げかけられながらも、それぞれの幸せの形に触れ、何か温かいものを感じました。

● 私にも自閉症の息子がいます。親も大変だけれど本人はもっと大変だったのだ、様々な本人の行動は本人の訴えだったのだと、今だから思えます。健常者から見ると障害者はかわいそうな人と思う人が多いかもしれないけれど、本人の幸せって何だろう、本人が幸せに生きるということはどういうことなのか、親として一緒に考えながら見守っていきたいと思いました。そして、いろいろな生きづらさがあり、それを周囲の人たちにも理解してもらいたいと思いました。(50代・女性)

● 胸がいっぱいになりました。私も家族に問題を抱えているのですが、こうして様々な家族の物語をみんなで分かち合う時間は貴重だと思います。研修や講演という形式よりも映画の上映会などのほうが気軽に学びやすいです。(40代・女性)

● 普段関われない方々のリアルなところを観ることができてよかったです。親や家族、特に母親は罪悪感を持ち、どうしてもないところで悩みながら、ご本人と向き合っていることがわかりました。今回のようなミニ講座、地域の他の団体とつながる、また地域の方々とつながれる機会になっていていいですね。(20代・女性)

参加者の感想

● 健常者でもいろいろな人がいます。その人なりに幸せに生きていけたらいいなと思いました。見た目で判断せず、足りない部分をお互い補い合っていきたいと思います。(50代・女性)

けやきコミュニティ協議会

高橋 優子さん



「どんな地域にしていきたい、なつてほしいと思われませんか？
何が正しいかはよくわからないけれど、思いやり」のあるまちになつてほしいと思います。

「人として大事なことなのかなって思います。」

「実際に、映画をご覧になっていかがでしたか？」
私にも知的障害のある高校2年生の娘がいます。障害といっても様々。それこそ「多様性」という言葉が当てはまる。そういった意味でもこの映画はハッピーにもなるし、自分の表現をどうしていけばいいかという学びもある。私の娘も「デートに行きたい」「結婚したい」という夢を持っていて、その夢や希望からくる湧き上がる想いがどのように変化していくのかが人として大事なことなのかなって思います。

「この映画の上映会をしようと思われた理由は？」
きっかけは友達が「どうしてもこの映画が見たい」という、その気持ちに応えたかったからです。そして地域の方々と一緒に見ることができたら、同じものを共有でき、次の行動にもつながるのではないかと。そして、他団体に声をかけました。快く賛同してくれて今回は、法人武蔵野、大野田福祉の会、けやきコミュニティ協議会の共催で、上映会をすることができました。



かかわったスタッフの皆さん
(大野田福祉の会、けやきコミセン、当法人職員)



法人武蔵野 自慢の一品詰め合わせ

10月1日（火）15時「武蔵野市ふるさと応援寄付」のサイトがオープンしました。これはいわゆる「ふるさと納税」のことです。寄付をすると所得税や住民税の控除が受けられ、自治体から返礼品を受け取れるという制度です。私たち法人はその中の、思いやり型返礼品として『ぎふと』『という形で出品しています。』思いやり型返礼品』とは、寄付をすることで「自分のためでなく誰かのためになる」、「社会貢献に繋がる」というもので、武蔵野



「武蔵野市ふるさと応援寄付」がスタートしました!!

→地図
P.8-ABC

アールブリュットの
オンリーワンTシャツ

市以外の幅広い方々のご厚意が私たちの想いや活動を支えて下さることになります。

一番のおすすめは15000円〜20000円の返礼品です。デイセンターふれあい、ワークセンターけやき、武蔵野福祉作業所の3施設コラボ商品で、各店舗からそれぞれ自慢の商品をひとつの箱に収めました。内容は



Tシャツ製作風景

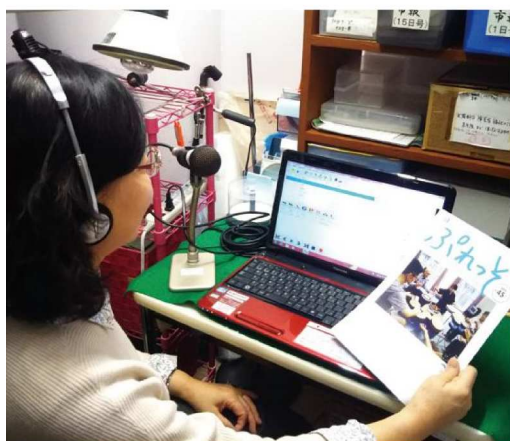
このような形です。アールブリュットTシャツ「つむぐと」、焼き菓子「パールブーケ」、シュガーサブレ【やさしい食堂七福】。

アールブリュットTシャツの「アールブリュット」とは、既成の表現方法にとらわれずに独自の方法と発想で製作された美術作品のことです。重度の障害がある方々が、写真のように特殊な補助具を使いながら手や足などその方が使える体の一部を使って、一筆ずつ丁寧に仕上げています。製作者の言葉にはならない心の声を聴きながらその意思を形にするため職員がサポートします。順調に筆が運べる日もあればそうでない日もあるけれど、あきら

めずコツコツ。1枚のTシャツを作るために時には1か月ほどかけて、世界に1つだけのオンリーワンTシャツを作っています。

「つむぐと」「パールブーケ」「七福」は、これまでそれぞれで食やアートなどのモノづくりをしてイベント出店や広報活動をし、つながりはあまり多くありませんでした。それが今回ふるさと応援寄付を通じて初めて、3つの活動がひとつになりました。これはとても大きな一歩になりました。これからさらに横のつながりを深め、法人ブランドとしての発展を進めていきたいと思います。

（武蔵野福祉作業所 柴田 美季）



録音はパソコンまたは録音専用機。そしてパソコンで編集します。



ベテラン音訳者の森さん（左）と小島さん（右）。小さな録音室の棚には、正確な原稿読みに欠かせない資料、辞書などが並んでいます。

「朗読奉仕の会むさしの」（以下「むさしの」）は、視覚障害者に市報などの広報誌を朗読（音訳）して録音し、音源を届ける活動をしているボランティア団体です。1972年に、近所の視覚障害者の方に頼まれて、2人の主婦が自前のカセットで情報を吹き込んだことが発足のきっかけでした。現在は24名のメンバーで、「市報むさしの」「市議会だより」「まなこ」「市民社協だよりふれあい」「選挙公報」など、

計13種類の音声版広報を、登録した利用者の方々に無料で届けています。5年ほど前から、「ぶれっそ」の音声版も作成して頂いており、それがご縁で社会福祉法人武蔵野と「むさしの」とのかかわりも生まれました。「目の前に相手がいるように話します。気持ちは声に出ますから。図解や写真も大事な情報です。事前にしっかりと理解して原稿を作成し、録音に臨みます。」

よりよい地域づくりをめざして活動している団体等を紹介します。

たて糸よこ糸

朗読奉仕の会
むさしの

●朗読ボランティアに関するお問合せ
朗読奉仕の会
むさしの 代表 米丸俱子さん
TEL・FAX 0422-22-2863



●武蔵野市の広報の音声版の購読についてのお問合せ
〒180-8777
東京都武蔵野市緑町 2-2-28
武蔵野市役所 障害者福祉課
TEL 0422-60-1904
FAX 0422-51-9239
E-mail SEC-SYOUGAI@city.musashino.lg.jp

す」。

ベテランの音訳者で、副代表を務める小島春美さんは、原稿を読み上げるときのコツや準備をこのように話してくれました。音訳者になるには、正確かつ伝わりやすい読み方の技術や、録音する機械の操作を学ぶ講習を受けます（1日2時間×10回を約3か月にわたり聴講並びに実習）。その上で、メンバーとして正式に活動に参加します。

現在、「むさしの」の利用者は40名。武蔵野市の全人口からすれば、決して多くはありません。

「市報や選挙公報は当たり前のようにポストに投函されます。同じように、音声版も、市在住の視覚障害者全員に届けられるようになってほしいです。」

市民であれば当たり前のように得られる情報が、視覚障害者には行き届いていない状況があるので「『武蔵野市わたしの便利帳』は、分厚いから枕にしています」と、ある視覚障害者から聞き、「これではいけない」と自発的に「むさしの」が音訳を申し出た例もあるのだそうです。

「1人でもご利用者がいる限り、この活動を続けていきます。今のメンバーは30〜70代まで年代もさまざまですが、技術を継承するためにも、若い人たちに音訳のことをもっと知ってもらいたいです。」

講習を受ければ、音訳は誰にでもできます。少しでも興味を持った方は、ぜひ「むさしの」に問い合わせてみてください。

（聞き手 法人本部事務局 石田 真緒）

入居者の誕生日

特別養護老人ホームゆとりえ

金原 叶依

→地図
P.8-D

鰻が好物のご入居者と

特養では「入居者担当」という係があります。ご入居者の生活で個別に必要な衣類や補食の調達、居室の整理といった身の回りのことに対応します。また、ご入居者と話したり、普段の生活の様子から情報を集め、それぞれの生活の中で困っていることを解決し、その人らしく生活するためのケアプランを立てます。

私は現在3人の入居者担当となっています。その中の1人のご入居者は担当になって4年目になります。その方は入所された時からお話好きで、ご自分のこともたくさんお話しくなりますが、私たち職員の話もよく聞いてくださいます。

私は静岡県浜松市の出身で、鰻が名産です。好きな食べ物の話をした際に、私が「鰻はタレより白焼きの方が美味しいと思います」と話すと「私もそう思うの!」と嬉しそうにおっしゃいました。それから毎年10月のお誕生日には、吉祥寺で鰻の白焼きを購入しています。以前は皮も召し上がっていました。現在は咀嚼の問題で普段の食形態も変わってきましたが、皮を取り除けば白焼きは召し上がれます。「お誕生日おめでとうございます!」と鰻をお見せした際の笑顔は毎年変わありません。来年も鰻と一緒に誕生日をお祝いできるのを楽しみにしています。

話を聞いてもらう経験が自分で解決する力に繋がる

地域生活支援センターびーと

山下 愛澄

→地図
P.8-Eレストランにて。
美味しいものを食べると話も弾みます。

一般就労をしている登録者向けの「集まろう会」という活動があります。夕食会や調理、外出などを通して仲間づくりの機会としています。

私は昨年度から活動に参加していて、「話を聞いてもらえる場を求めている」人の多さに気づきました。どの方も生き生きと仕事の話をし、苦勞し

たこともどこか誇らしげに語ってくれます。今年度は武蔵野市まちづくり推進課のヒヤリングを受け、市役所の方に話を聞いてもらえることをとても喜んでいました。

「集まろう会」を開催する時、「どの参加者も主役になる時間をつくること」を心がけています。遠慮をして話すタイミングを見つけれない方に「最近、どうですか?」と話を向けると「実は新しい業務を任されるようになったんです」と話し始め、他の方も耳を傾けます。

落ち着いて聞いてもらえる環境で話す経験を重ねることで、自分の考えを整理することができそうです。そのように思考を深めたり整理していくうちに自身を客観的に捉え、自分の力で悩みや問題の解決策を導き出せるようになっていきます。仕事で苦勞や失敗しても前向きに進んでいける力を身につけられるよう、「話をしてよかった」と思える雰囲気づくりを大切にしていきたいです。

福々刻々

ミライズ基金 御礼とご報告

もとより社会福祉法人は公益性、非営利性を骨子とした事業体ですが、その使命は大きく3つあると私はとらえています。一つはご利用者の支援の充実。人権を守り、サービスの質の向上や環境改善に取り組むこと。二つには地域社会の課題に向き合い、様々な主体と協働してその解決をめざすこと。そしてそれらを通して福祉的なまちづくりの一翼を担っていくこと。そして三つめには非営利組織としての経営力を高め、福祉人材の育成、透明性の高い運営、そして有用な情報の発信などを行うこと。これらが社会福祉法人の使命、役割だと考えます。

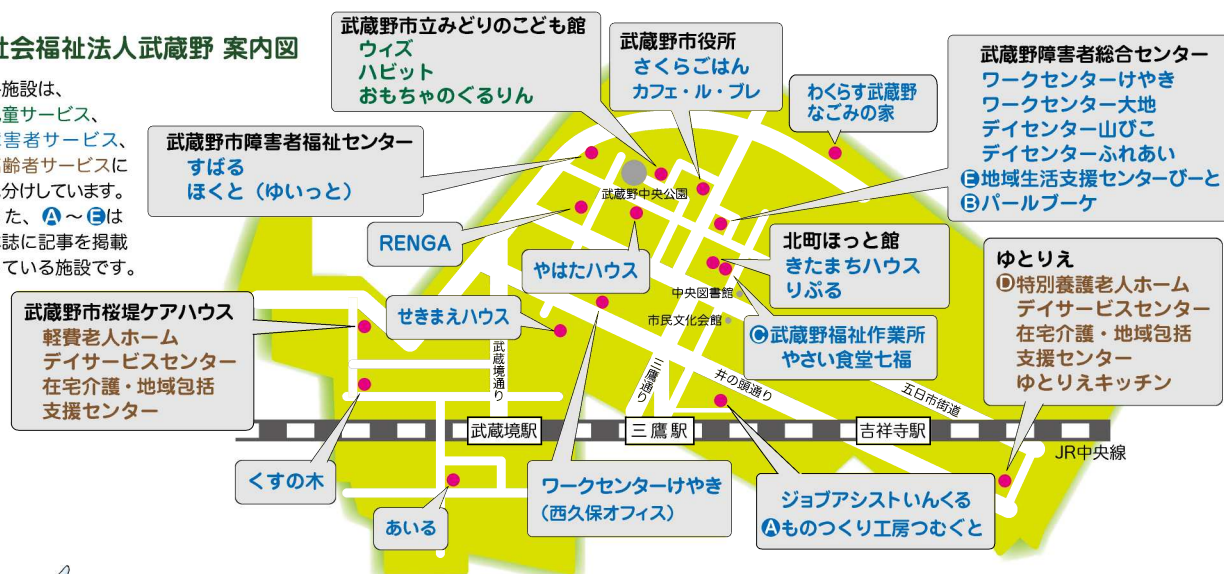
その活動をより推進するにあたっては、必要とな

ミライズ☆基金



(理事長 安藤真洋)

各施設は、
児童サービス、
障害者サービス、
高齢者サービスに
色分けしています。
また、**A**～**E**は
本誌に記事を掲載
している施設です。



編集後記

地域の皆様への情報発信を行うミニ講座、今後のプログラムもお楽しみに！ ぜひご参加ください。(は)